

今週のメニュー

■トピックス1

◇中国の塩ビ事情

■トピックス2

◇名古屋プラスチック工業展に出展

■編集後記

■トピックス1

◇中国の塩ビ事情

10月16-19日に、中国昆明において、中国クロロアルカリ産業協会（CCAIA）がホストし、APVN（アジア太平洋ビニル・ネットワーク）総会、GVC（世界塩ビ協議会）及び、第7回 CCAIA 総会が開催されました。CCAIAによると、中国は、世界の塩ビ生産能力の42%(2,430万トン)を占め、生産量も1,790万トンと2位の米国を1,000万トン以上引き離す最大のプレーヤーです。その中国が塩ビに関してこのような会議を開催する初めての機会となりました。



会議場光景



世界各国からのスピーカー

中国の塩ビ樹脂需要は、管継手が32%、窓枠などのプロファイルが20.5%、フィルム11%、床材・レザーなどの発泡製品7.5%、電線・ケーブル6%、靴4%などとなっています(表1)。インフラで大きな役割を果たす管継手と電線・ケーブルは、インドだと73%と5%、ASEANだと46%と10%、欧州は22%と7%、日本が33%と12%ですので、需要構成は途上国よりも先進国に近く幅広い分野に広がっているのが一つの特徴です。



展示ブースの賑わい

Capacity growth enters into rational development period after rapid inc

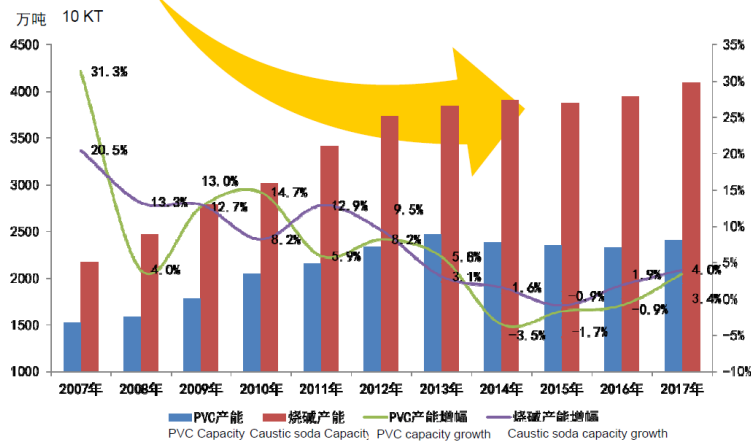


図 1. PVC 及び苛性ソーダの生産能力の推移 (CCAIA)

Steady growth for market demands(PVC)

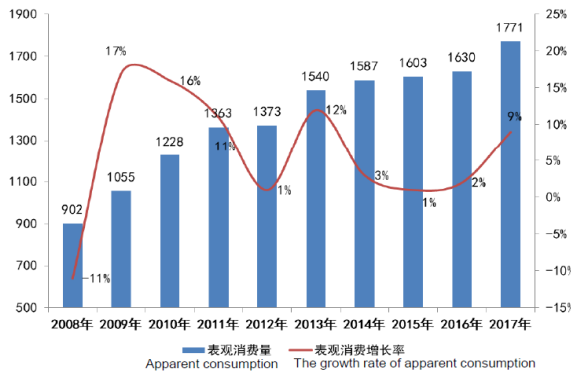


図 2. PVC 需要の推移 (CCAIA)

Consumption field	%
Pipe fittings	32%
Profiles, doors and windows	20.5%
Film	11%
Floor leather, wallpaper, foaming material	7.5%
Soft products	6.5%
Cable	6%
Hard piece, plate and other profiles	5.5%
Shoes and sole materials	4%
Artificial leather	3.5%
Hard product	3.5%

表 1. 中国の塩ビ樹脂需要構成 (CCAIA)

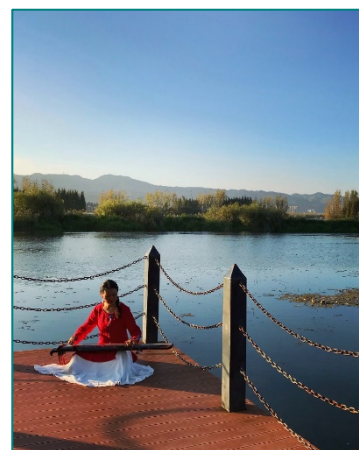
中国では、塩ビモノマーの生産の 8 割が石炭化学に由来し、内陸部の重要な産業を形成しています。近年は環境問題への対応能力の高い製造施設への集約化を進め、石炭化学由来の製法では必須となる触媒についても重金属の回収の徹底と使用量の削減、及び、触媒転換により環境負荷の低減に努めています。生産能力のピークは 2013 年でしたが、稼働率が 62%から 2017 年には 74%に上がり、生産量は少しずつ増えています (図 1、2)。企業規模は、30 万トン以下の事業者が、2010 年には 43%を占めたのに対して、2018 年には 21%に減少する一方で、100 万トンをこえる事業者は 6 から 17 へと増加し、事業者の平均的生産能力が 22 万トンから 32 万トンに増大しています。

経済成長がこれまでの高スピードから環境志向の安定型に移行する中で、積極的に構造調整に取り組む姿勢を示しており、生産能力過剰を抑える方針を明確に打ち出していました。シェールガスによりエチレンベースの塩ビモノマーが石炭化学由来のものに比して価格競争力を増すことへの危機感も強いものがあります。樹脂については新たなグレードの展開を図るとともに、用途においても、管継手などの従来の需要をしっかりと固める一方で、木材と樹脂の融合材料や建材での新規用途開拓を進めようとしているとのことです。

世界最大の塩ビ樹脂生産国と率直な情報交換、意見交換ができたことは画期的なことです。インフラ整備に深くかかわり、世界の経済発展に大きな貢献が可能な塩ビ製品。その潜在性を追求していくうえで、中国が果たすべき役割は大きなものがあります。今回の場合は、世界の仲間が中国ともよくコミュニケーションをとりながら諸課題に対応するよい

きっかけとなることと思います。

会議が開催された昆明は、中国西南部でベトナム、ラオス、ミャンマーと国境を接する雲南省の省都です。海拔 1900 メートルほどの高地ですが、冬は温暖で夏も涼しく、中国で最も快適な気候にあるようで、野菜や花の産地として中国全土を支えているそうです。多くの少数民族が生活し、交通の拠点として、多様な文化が交差する地でもあります。このような国際会議をホストするにふさわしい場所だったと感じました。昆明市では「海」と呼ばれている滇池（テンチ）。その対岸にそびえる西山と風光明媚な景色を作り、会議場近くでは、池を訪れていた楽団が異国情緒を醸し出していました。



滇池（テンチ）の光景

■トピックス 2

◇名古屋プラスチック工業展 2018 に出展

10月31日から11月2日まで愛知県の「ポートメッセなごや」にて、中部地区最大規模のプラスチック産業展示会「名古屋プラスチック工業展 2018」が開催されました（主催：日刊工業新聞、中部プラスチック連合会、（一社）中部日本プラスチック製品工業協会、後援：経済産業省 中部経済産業局、愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所）。中部地区中心に138の企業・団体から144のブース展示があり、加工機械、成形機、ロボット、部品、計器、廃棄物処理、リサイクル関連機器、原料、副資材、金型などの展示がありました。VECは、主催者から招待を受け、特別企画としてブース出展し「[PVC Design Award](#)」の受賞作品を中心に展示を行いました。



開会式・テープカット

開会式では、主催の日刊工業新聞社長より名古屋地区の活気のあるものづくりなど挨拶があり、VECからも来賓として出席し開会のテープカットをしました。3日間で約19,000名の来場者を迎え、当ブースには約1,500名の来場があり盛況のうちに終了しました。

今回は、これまでの「PVC Design Award」で受賞した作品や商品化している作品を展示してPVCの新たな可能性をPRしました。

2017年には軟質PVCだけでなく硬質PVCも含め対象を拡大しました。多くの方に作品を手にとって鑑賞していただきました。また、今回は中部ビニル卸協同組合と中日本プラスチック製品加工協同組合及び愛知デザインユニオンが協力し、新しい創作作品もブースに展示し華を添えていました。

自動車関連業界をはじめ、医療機器や文具関係、環境装置・機器等デザインに携わっている方などの来場者があり、作品に関して「商品化のためにはここを改善したらよい」「形やサイズを広げた方がよい」など感想や意見をたくさんいただきました。また、PVCの特徴や成形加工、環境対応に関する質問など多くの関心が寄せられました。今回ノベルティで配布した2011年の準大賞作品「サクラ」は、断面が光る集光性に多くの方が興味をもたれ、依然として高い人気がありました。



展示ブースの様子

周辺のブースでも、塩ビシートメーカー、塩ビ製品加工メーカー、クリーンルーム等装置メーカーなどからPVC製品の出展が散見され、PVCへの関心の高さが窺えました。

当ブースでは説明資料、パンフレット等も準備して、資源循環問題、地球温暖化対策などの課題に対して、PVCが省資源で、環境負荷が少ないこと、長寿命で、リサイクル性能などに優れていることから持続可能な社会づくりに貢献していることをPRしました。今回の出展で来場者の方々との意見交換を通して、引き続き関連する企業や団体と連携しつつ、普及啓発活動を促進していくことが重要であると改めて感じました。



展示ブース（受付）

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

日本最大規模の環境展「エコプロ2018 <SDGs時代の環境と社会、そして未来へ>」が12月6日（木）～8日（土）、東京ビッグサイトで開催されます。VEC（塩ビ工業・環境協会）とJPEC（塩化ビニル環境対策協議会）は2年ぶりに共同出展します（ブース：東6ホール 6-002）。塩ビ製品の耐久性、長寿命、省エネ、リサイクル性など優れた特徴を紹介します。クイズラリーも用意しています。皆様のご来場をお待ちしております。

<http://eco-pro.com/2018/>

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
